

企業事例 8

～地域貢献により会社の発展をめざす取り組み～

◆会社概要◆

本 社 広島県
設 立 昭和26年
従業員数 10,674名（平成18年3月31日）
事業内容 電気事業 等

1. 取組みの経緯

同社は、中国地方とその周辺部を存立基盤として、これらの地域の理解と協力の下で事業展開をしている。そのため、地域の発展が会社の発展につながるの認識で、地域社会の一員としての責務を果たそうと考えている。

また、近年、企業は本来の事業を通じて社会に貢献していくだけではなく、より直接的に「社会への貢献」、つまり「企業が社会に何をしているのか」が社会の企業に対する評価の大きな基準・要素となりつつある状況を踏まえ、同社は地域の良き構成員として社会に存在するとともに、同社の持つ人材などを活用し、地域の産業の振興や文化の向上に積極的に貢献することをめざし、経営理念の一つに「地域の発展への貢献」を掲げている。

2. 取組みの状況

(1) 全社員によるフィラソロピー活動

同社の社会貢献活動の中心的な取組みとしては、平成13年度から開始した社員参加型活動（全社員によるフィラソロピー活動）がある。これは、中国地方各

地域の社会的課題の中でも、特に環境保全・社会福祉・教育分野に重点をおき、「社会にいかに関与できるか」を重視し、全社員による汗をかき顔が見える活動を展開している。

活動分野とその内容

分 野	主な活動
環境保全	森林の下草刈り、植樹、道路や河川などの清掃・美化
社会福祉	社会福祉施設や独居高齢者宅の電気設備点検・清掃、点字図書 の寄贈
教 育	環境・エネルギー教育（小学生から大学生までを対象に行う出前授業、電気教室、施設見学会等） エネルギー自然環境塾（自然体験イベント）

(2) エネルギー・ボランティア人材バンク

また、社員個人のボランティア活動を支援する制度として、平成14年2月にエネルギー・ボランティア人材バンクが創設された。この制度は、ボランティアとして活用できる社員一人ひとりの知識や技術・特技などを会社に登録し、地域社会のさまざまな場面で活かす紹介制度である。

平成18年3月現在、登録人員は83人、平成17年度の活動実績は4件となってい

る。

この制度の仕組みは、①社員が専門知識・技術・特技・資格などをもとにそれぞれの分野に登録する、②事務局がパンフレットを公民館やその他の施設に配布するほか、ホームページを活用して、広く情報提供を行う、③利用したい団体が活動日の1ヶ月前までにホームページまたはFAXを通じて事務局へ利用を要請する、④事務局が登録者に連絡をして、スケジュールの調整、確認などを行う、⑤事務局が依頼団体へ登録者を紹介する、⑥依頼団体が登録者へ連絡をして双方で打ち合わせを行い、ボランティア活動を実施する、となっている。

現在、登録可能な分野は、環境保全、社会福祉、地域活動のほか、スポーツ・レクリエーション、教育・文化・芸術、国際交流・協力などがある。また、それぞれの分野における登録区分としては、豊富な知識と経験を活かした助言指導活動の「専門ボランティア」と、一般的な手伝いや援助活動の「なんでもボランティア」の2つに分類することができる。

これまでの主な活動実績としては、熱気球やペットボトルを使ったロケットの作成・打ち上げ教室、国際交流イベントの助言やレクリエーション指導など、専門知識を活用した活動が多い。

こうした社員のボランティア活動を支援するため、同社では平成5年にボランティア休暇・休職制度を導入しており、休暇制度（ライフサポート休暇）では年間30日、休職制度では1ヶ月以上1年以内の休みを取得できることとなっている。



「熱気球教室」

3. 取組みの効果

前述のとおり、同社では、地域とともに歩む、共生していくことが事業を展開していくうえでの最優先事項の一つとしてとらえられている。

したがって、社会貢献活動を行うこと自体が、同社の必要不可欠な企業活動のようなものになっており、そうした活動は住民や地元の自治体からも認識され、受け入れられるものとなっている。

また、様々な社会貢献活動や個人のボランティア活動を通じて、地域社会への貢献はもとより、社員個人の人々の社会的感性も向上するという効果も表れている。

4. 今後の課題

地域への貢献を標榜する同社であるからこそ、その活動は、地域の人々に本当に喜んでもらえる活動にしていく必要がある。地域の人々とのかかわりの中で、同社は「汗をかき、顔が見える」活動を進めていくことが必要であると考えている。

地域の人に評価され、企業価値を高める活動に向けて、さらに一歩すすんだ地域への貢献の取組みが必要であると考えられている。